

馬城会報 (第 51 号より)

2年以上に及ぶ新型コロナ禍のもと、懐かしい同窓生が集まり、親しく顔を合わせる機会がほとんどなくなつた。人が人間らしく感情豊かに生きていく基盤となる人と人との密な交流に制限がかかる異常な事態は、いつまで続くのだろう。本部も支部も通常の総会もなく、各支部からのニュース、記事が届かず、会報編集には苦勞したようである。第 51 号の記事の一部を写真にして掲載する。

(1) 令和 4 年 2 月 28 日 馬城会報 第 51 号



旧校舎 (昭和 37 年~平成 15 年) のルーバーをイメージした現在の相馬高校校舎





馬城会報

「温故知新」
村山 正之 馬城会長

この立場になって数か月後初めて耳にした COME TO に今八十億人に達しようとする繁華のホモサピエンスが翻弄されています。マスク姿が日常となり、人流が制限され続けています。

馬城会としても、総会を書面で済ますなど、二年以上、人と人との交流会を開いておりません。

その中で「馬城会員名簿」は、当初の計画通り、五年に一度の改訂版を今年一月にお届けすることができ安堵しております。同窓生の皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。

在宅のメリットもありました。これまでもツンドクだった「相中高八十年」「紅の旗・創立 50 周年」「相中相高百年史」「紅の旗・創立 110 周年」乗り越えてその先へ、創立百二十周年などの記念誌に目を通す機会を得たことです。

それぞれの時代の生徒た

発行所 福島県立相馬高等学校
馬城会 相馬市中村字大手先 57-1
TEL 0244-36-1331
FAX 0244-36-6149
発行人 馬城会長 正之
村山 印刷人 中村印刷刷

17号 相馬中・小島孝正
18号 相馬中・小島孝正
19号 相馬中・小島孝正
20号 相馬中・小島孝正
21号 相馬中・小島孝正
22号 相馬中・小島孝正
23号 相馬中・小島孝正
24号 相馬中・小島孝正
25号 相馬中・小島孝正
26号 相馬中・小島孝正
27号 相馬中・小島孝正
28号 相馬中・小島孝正
29号 相馬中・小島孝正
30号 相馬中・小島孝正
31号 相馬中・小島孝正
32号 相馬中・小島孝正
33号 相馬中・小島孝正
34号 相馬中・小島孝正
35号 相馬中・小島孝正
36号 相馬中・小島孝正
37号 相馬中・小島孝正
38号 相馬中・小島孝正
39号 相馬中・小島孝正
40号 相馬中・小島孝正
41号 相馬中・小島孝正
42号 相馬中・小島孝正
43号 相馬中・小島孝正
44号 相馬中・小島孝正
45号 相馬中・小島孝正
46号 相馬中・小島孝正
47号 相馬中・小島孝正
48号 相馬中・小島孝正
49号 相馬中・小島孝正
50号 相馬中・小島孝正
51号 相馬中・小島孝正
52号 相馬中・小島孝正
53号 相馬中・小島孝正
54号 相馬中・小島孝正
55号 相馬中・小島孝正
56号 相馬中・小島孝正
57号 相馬中・小島孝正
58号 相馬中・小島孝正
59号 相馬中・小島孝正
60号 相馬中・小島孝正
61号 相馬中・小島孝正
62号 相馬中・小島孝正
63号 相馬中・小島孝正
64号 相馬中・小島孝正
65号 相馬中・小島孝正
66号 相馬中・小島孝正
67号 相馬中・小島孝正
68号 相馬中・小島孝正
69号 相馬中・小島孝正
70号 相馬中・小島孝正
71号 相馬中・小島孝正
72号 相馬中・小島孝正
73号 相馬中・小島孝正
74号 相馬中・小島孝正
75号 相馬中・小島孝正
76号 相馬中・小島孝正
77号 相馬中・小島孝正
78号 相馬中・小島孝正
79号 相馬中・小島孝正
80号 相馬中・小島孝正
81号 相馬中・小島孝正
82号 相馬中・小島孝正
83号 相馬中・小島孝正
84号 相馬中・小島孝正
85号 相馬中・小島孝正
86号 相馬中・小島孝正
87号 相馬中・小島孝正
88号 相馬中・小島孝正
89号 相馬中・小島孝正
90号 相馬中・小島孝正
91号 相馬中・小島孝正
92号 相馬中・小島孝正
93号 相馬中・小島孝正
94号 相馬中・小島孝正
95号 相馬中・小島孝正
96号 相馬中・小島孝正
97号 相馬中・小島孝正
98号 相馬中・小島孝正
99号 相馬中・小島孝正
100号 相馬中・小島孝正

「コロナ禍での教育活動」
校長 瓜生 康弘

馬城会の皆様には、母校と後輩にたいして並々ならぬ御厚情をいただいております。ことに厚く御礼申し上げます。

一昨年春から世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスが、日常生活だけでなく、学校でこれまで当たり前だった教育活動の全てにわたって大きく見直しを迫らなければならぬものとなりました。

まず、授業でのグループ学習をはじめ、合唱、生徒同士の接触する運動、実験・実習などの感染リスクの高い学習活動が一時的に制限された。また、他の活動や部活動においても必要な感染防止対策を講じなければならなくなりました。さらには、卒業式や始業式、生徒

12号 垂れ下った越中神
13号 懐かしい「小高野友仁
14号 高普4回卒 石橋 武
15号 高普4回卒 長崎 守弘
16号 私の中の相高美術部
17号 高普4回卒 渡辺 雄彦
18号 中学時代の英文授業
19号 高普1回卒 小島 啓明

12号 相高夜間部第1回生として
高定普夜1回卒 佐々木 實
在校生のみならず、ゼ
ットで検索してみ
くたさ。故きを温ねて新
しきを知り、人生の指針と
なる至らぬ巡り会ってくださ
れば幸いです。

て若駒強事大会と2年振り
に開催しました。さらに、
昨年度予定されていた公開
文化祭が一年延期されてみ
ましたが、九月上旬に二日
間の日程で感染対策を徹
しました。福馬独自の非常
事態宣言が発令中だったた
め一般公開はせず、仮装行
列の代わりに仮装大会を行
うなど、校内だけでの実施
となりましたが、様々な制
約がある中で、生徒たちは
工夫を凝らし、全員で力を
合わせてより完成度の高い
ものを作り上げようと勇往
邁進する姿が見られ、相高
生の持っているエネルギー
やポテンシャルの高さを感じ
ることができました。一
般公開していたら地域の皆
さんなど多くの来場者が訪
れたことと盛りに上がって
いたことと思います。

また、修学旅行について
は、新型コロナウイルス感
染症の感染状況を踏まえて
保護者にアンケートを取
り、それを受けて、行き先
を関西から長野・北陸方面
に変更する案を提案し、保
護者の皆様にご了解をいた
だいた上で実施することが
できました。期間中は天候
にも恵まれ、生徒達は冬景
色の立山や秋の金沢を満喫
し、無事に終了いたしました。
また、例年は暑い七月
に実施していた校外球技大
会を一日の日程に短縮して
十月中旬に実施しました。
さらには、昨年度に続き、
十二月末に相高 ART 展を
実施しました。今年度は、
文化部の作品展だけでなく
、市民会館で吹奏楽部や
演劇部、相馬太鼓部などの

発表会を、感染拡大防止の
観点から来場者を生徒と家
族及び学校関係者に制限し
て実施しました。

また、夏には東京（〇〇）
オリベックがほとんどど
の会場でも無観客開催され
ましたが、三月末に「ウィレ
ジ」でスタートした聖火リ
レーが県内外を回り、相
馬中村神社で行われた二日
目の出発式では、相馬太鼓
部が演奏し聖火リレーを盛
り上げました。また、日本
オリベック委員会が主催
し、開催都市東京と震災復
興の思いを抱く東北・福
馬・マラソン競技の会場と
なる札幌をオンラインでつ
なぎ、世界への感謝の思い
を発信するハイブリッドイ
ベントへの出演について相
馬太鼓部とバレエ部とが
コラボレーションし、事前
に撮影協力したり、当日
のオンライン開催に Zoom
で参加することができまし
た。

このようにコロナ禍にお
ける新しい学校生活のスタ
イルを生徒の柔軟な発想と
アイデアで創造している
ところですが、生徒たちが
以前のようなびびりや学
習や部活動等に取り組むこ
とができるよう、新型コロナ
ウイルス感染症の一日も
早い終息を祈るばかりで
ない。同窓生の皆様には、更
なる伝統づくりに努めて
いく本校の変わらぬ支
援を賜りますようお願い
申し上げます。

各支部の動き

原町支部



令和三年三月から数回支部役員会を開き、次年度総会の持ち方を検討続けて来ました。二年連続中止は避けたい、コロナ対策を万全にして開催の方向でまとまりました。支部理事会を開き、「総会のみ実施」「懇親会自粛」で了承され開催になりました。

原町支部総会は、令和三年五月三十日(日)南相馬市石神生進学習センターで総勢三十名が集い開催されました。総会は校歌のハーモニカ演奏で始まり、議案は原案通り承認されました。今年度は役員改選期にあたり、ほぼ全員が再任されました。

令和三年三月から数回支部役員会を開き、次年度総会の持ち方を検討続けて来ました。二年連続中止は避けたい、コロナ対策を万全にして開催の方向でまとまりました。支部理事会を開き、「総会のみ実施」「懇親会自粛」で了承され開催になりました。

原町支部総会は、令和三年五月三十日(日)南相馬市石神生進学習センターで総勢三十名が集い開催されました。総会は校歌のハーモニカ演奏で始まり、議案は原案通り承認されました。今年度は役員改選期にあたり、ほぼ全員が再任されました。

仙台支部

仙台支部(佐藤昌利支部長)は、令和三年三月二十七日(土)に支部役員会を開催し、新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、今年秋の支部総会の開催を目指すことを決定いたしました。しかしながら、その後も宮城県・仙台市においてなかなか感染が沈静化しないことから、大変残念ながら令和三年年度の支部総会の開催を見送ることになりました。

なお、昨年度の会報にも掲載されましたが、当支部会員の弁護士荒中氏(昭和48年卒)の日本弁護士連合会長就任祝賀会を、遅ればせながらコロナ禍の間隔を縫って、十一月二十日(土)に支部会員有志により開催いたしました。当日は、村山正之本部長、西一信鹿島支部長を来賓に迎え、久しぶりのこともあり大変和やかな会となりました。

新型コロナウイルスの感染の終息が見通せない中、当支部も大変苦慮しており、令和四年年度の支部総会の開催に向け努力して



した。本部より村山正之会長、四月着任の瓜生康弘校長、今野直樹事務局長を来賓として迎えしました。

村山会長より、「相中相高百年史」から当支部出身の幾多の先輩の「思い出の記」をコピーして配布され祝辞の中で紹介されました。

総会終了後のアトラクションでは、会員の渡部光明さんの謡曲、林博太郎さんのハーモニカ演奏が披露され、コロナ禍の中で和む時間になりました。

会員の中には、「この時代だからこそ」相中相高魂を持って総会に出席したと言う声も聞かれました。

尚、原町支部総会の詳細は「馬城から版二〇二一年第86号」にも載っています。

馬城会主催

「プロフェッショナル 研究者の流儀」
～若き研究者の講演会～
群馬大学生体調節研究所
佐々木伸雄 教授



母校での講演会を終えて
群馬大学生体調節研究所
教授 佐々木 伸雄

理数科「年生への進路指導の一環として、馬城会主催のリモート講演会が、令和四年一月十三日(木)相馬高校で開催された。相馬理数科出身の若き研究者、佐々木伸雄群馬大学教授から、最新の学術研究(幹細胞生物学)の話、相高時代の話や進路に関する助言などを講演していただいた。オランダで世界最先端の研究に携わったときの研究成果や、研究職という職業の魅力などを生徒達にわかりやすく話していただいた。研究者にとって大事なのは「好奇心+創造力+健康な体」であり、常に心のどこかに「？」を抱いているこ

とが大切、また、研究者は出身地や性別などに関係しない素晴らしい職業であること話された。

高校2年生への進路決定アドバイスとして、「進路決定は早めに」「大学は行かないと分らないことが多い」「やり直しはきく」「十年後の自分なんて誰にも予想できない」「英語、小論文は研究に必須なのでぜひおいた方がよい」など貴重な言葉をいただいた。

生徒の感想より(抜粋)

●なぜヒトはヒトなのかという疑問から、臓器をゼロからつくるという発想がすごいと思います。

●とても興味深い内容でした。生物と化学の壮大な可能性を感じ、ワクワクしました。

●今やようど進路について悩んでいて、無謀な夢だからあきらめようかと思ってしまうこともありますが、先生もおっしゃっていましたが、楽しむつもりで気負わず精一杯頑張ってみようと思います。

●受験に向けて不安しかありませんが、好きなものを極めるということがすごく魅力的だったので、その手段として、やるべき勉強を頑張っていることだと思います。少し背中を押されたような気がします。



私の専門は「幹細胞生物学」でありまして、我々のカラダに存在する組織幹細胞を操作する技術を開発することで、本邦の「健康長寿社会の創生を目指す」わけです。

私は高校時代から夢んでいた研究に携わる仕事をいまでも続けられており、本当に幸運を感じております。特に研究人生の中で東日本大震災を経験し、相馬地区の惨状を目の当たりにした際には、私は生命科学研究などやっていて良いのかなど自問自答を繰り返すこともありましたが、福島第一原発事故後の報道リテラシーの低さに愕然と

し、相馬地区の風評被害を防ぐためにも正しいサイエンスの知識を発信することで地元復興支援を行おうと心に誓い、今でも継続しております。

この度、理数科時代恩師のご厚意により、理数科の後輩たちに「研究者とは」について講義をする機会をいただきました。せっかくのチャンスですので、三十年以上かかると言われる福島原発の廃炉処理や、痛患者を救える新薬の開発を牽引する研究者が相馬高校出身となるよう、現在母校で学んでいる若い生徒さん達を叱咤激励したつもりです。母校の生徒さんの中から、

次(の)研究者が育ってくれることを楽しみにしています。これまで、相馬高校卒業生の皆様、馬城会関係者の皆様には多大なるご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。これからも皆様方のご健勝と母校の発展を心より祈念いたします。

《プロフィール》

1997年3月	相馬高校卒業(理数科第26回)
1997年4月	東京理科大学基礎工学部入学
2001年4月	東京理科大学基礎工学部研究科入学
2006年3月	東京理科大学基礎工学部研究科博士課程卒業
2007年3月	工学博士(東京理科大学)取得
2007年4月	国立遺伝学研究所研究員
2011年1月	オランダ国立フレクト研究所研究員
2016年1月	慶應義塾大学医学部消化器内科特任助教
2021年4月	群馬大学生体調節研究所教授
2021年4月	慶應義塾大学医学部訪問教授

佐々木伸雄教授
(磯部出身)